刊行にあたって

外科医の知識と手術技術の良し悪しが、患者の未来、すなわち生命予後と QOL に大きな影響を与えることはだれしも認めることである。要は外科医の腕次第で患者の命が左右されるわけである。そのため、当然であるが外科医には己の外科技術を高めていく義務と、治療困難な患者に立ち向かう試練が常に課されている。

本書に先立って刊行されたシリーズ『ビジュアルサージカル 消化器外科手術』は、国内トップクラスの消化器外科医が今までにない新しい趣向を凝らして著したものであった。特にこれから専門医を取得しようと修練に励む外科医に基本的な手術手技のコツを、直感的にわかりやすく示したものであり、好評を博した。

『ビジュアルサージカル 呼吸器外科手術 肺』と『ビジュアルサージカル 呼吸器外科手術 縦隔・胸膜・胸壁』の2巻はこのビジュアルサージカルシリーズの一環として、呼吸器外科専門医を目指す若手外科修練医はもちろんのこと、最新の呼吸器外科手術手技の知識を得たいと思う指導的外科医に対して、現在の呼吸器外科現場で行われている基本的な手術から高度な手技までのうち、重要度が高いものを選び、解説を行うものである。臨床の最前線にて活躍中の呼吸器外科医による豊富な経験に基づいた手術手技のコツに関する記述的な解説や、精巧なイラストを見るだけでなく、本書内に記されたQRコードからWEBを介してスマートフォンやタブレット上で手術映像を閲覧することができる。手術手技を直感的に習得できるようにしたものが本書である。

最後に、多忙な診療の中でご自身の手術手技の伝授に労をお取りいただいた著者の先生方、そして極めて短期間で発行までこぎつけていただいた学研メディカル秀 潤社の谷口陽一氏に厚く御礼を申し上げる.

2020年8月

東京大学医学部附属病院呼吸器外科 教授

中島 淳

杏林大学医学部呼吸器・甲状腺外科 教授

近藤 晴彦